

第3回『Tsuku-場 フォーラム』アンケート集計結果

多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。簡単ではありますがアンケートを以下のようにまとめました。

- ・開催日： 2014年10月12日(日)13:00～17:00
- ・場所： 筑波大学 東京キャンパス 文京校舎 多目的講義室
- ・内容： 個人と組織の成長を生む働き方～関わり合う職場のマネジメント
- ・講演者： 鈴木竜太氏(神戸大学大学院 経営学研究科 教授 経営学博士)

参加状況

申し込み人数	参加者	アンケート回収数
124	94	82

Q1.満足度について

とても高い	高い	普通	低い	とても低い	未記入	計
21	41	14	4	0	2	82

アンケートに書かれたコメントの中で、代表的なものを抜粋しました。

- 知識の整理ができたこと。自社でどのような施策ができるか？またどのように運用するかを考えられた点。育てられる人を育てる、場を作れる人を育てる。という自分自身のテーマを高い志で実現していきたいと思った点。
- 今回学んだコミュニティという中間的なものがバッファ的に個人と組織の関わり合いをスムーズにしていくのだからわかりました。
- 企業・大学・行政と、全ての分野の方がいたので、興味深いフィードバック、情報交換の場となった。
- 職場にはいろいろなコミュニティがあり、マネージャーとしてどのようにそのコミュニティとかわかり、マネジメントするか、今後の課題と感じました。
- 関わりあうことの重要性は認識しているが、どのようにかわかりを強めるのか、その辺をもっと知りたいと思った。ケースの紹介は4件あったがもう少し、小さな職場の関わりを向上させる方法を知りたいと思った。大きな組織(大企業)よりも、小さな職場の中でのキャリア形成を必要としている人が多いのではないかと？
- あらためて「下からのマネジメント」の意味を再確認でき、今、自分が進んでいる方向でいいんだということが実感できました。その「場」や「しくみ」を構造的に作りこんでいくことが課題だと認識できました。
- “関わりあう職場”はあくまでも目的ではなく、副産物であるということ、しくみ作りが鍵ということ納得です。今後、鈴木先生にはさらなる現場リサーチ、より多くのケース紹介を聞かせていただきたいです。
- 昔に比べて、関わり合いが減ったのでは？という質問がありましたが、実際の所は関わり合いの必要性は増えたのではないかと思います。ただし、昔に比べて変化が激しく、関わり合いを持つことが難しくなっていると感じています。いかに、効率よく関わり合いをもてるか、関わり合うという趣旨と矛盾すること、両立がマネジメントの命題になるのかなと思いました。
- 3人でディスカッションしたが、全く異なる人たちとの話のやりとりができたことにこのフォーラムの面白さを感じることができた。
- 下からのマネジメントを誘発する上からのマネジメント(場づくり、仕かけ)を行う、という主旨はよくわかりましたが、雇用形態が複雑になっている中、実践するのは難しいのでは(と)感じました。

《講演の様子》

